

## 第5 再生を都民・地域と進めるために

### 1 都民、使用者との協力

霊園の再生は、既存の霊園を都民共有の財産として生まれ変わらせるのであるから、墓所の使用者および都民一般の深い理解と協力により実現されるべきである。

そこで、再生にあたっては、都民や墓所の使用者に対して、事業のPR・説明を十分に行い、意見を聴取しながら推進していくことが重要である。

### 2 地域との連携による再生の推進

谷中霊園は、霊園単体としてではなく、寺社など周辺のまちと一体となって存在している。谷中霊園の再生と谷中のまちづくりを積極的に連携させて進めることにより、地域全体の魅力が向上し、その価値をより一層高めることができる。このため、再生にあたっては、地域の人々やまちづくりと連携して取り組んでいくべきである。

例えば、霊園とその周辺施設の改修などでは、デザインや時期などで連携しあうことができるし、地域を巡る散策ルートの設定やサイン計画などでは、地域の人々と協力して行うことができる。

また、谷中霊園の敷地の中央部分は、かつて寺町に栄えた天王寺に由来する。霊園となってからも、震災や戦災をくぐり抜けた五重塔は、その焼失後には地元で再建の機運も生まれるなど、長い間地域のシンボルとして親しまれてきた。

園内は通勤や通学の道、散歩の場所などとして利用されており、地域に根ざした存在となっている。こうしたことから、例えば、地域に親しまれている五重塔跡の広場などは、再生にあたっては、その場所が将来とも地域の人々の心のよりどころとなりうるよう配慮していくことが必要であろう。

### 3 地域にふさわしいデザイン

谷中霊園の再生にあっては、その施設のデザインも地域の景観に溶け込み、まち全体の魅力づくりに資するものとしなければならない。

園内には、長い年月を経た味わいのある園路の石畳や古くからの墓所があり、また、霊園の周囲には寺社をはじめとする伝統的な建物などが残っている。

施設の整備や既存施設の改修に当たっては、これらの歴史を感じさせる建物や施設などを参考に、地域の景観になじむよう、明確なデザインコンセプトを定めた上でこれに取り組むべきである。



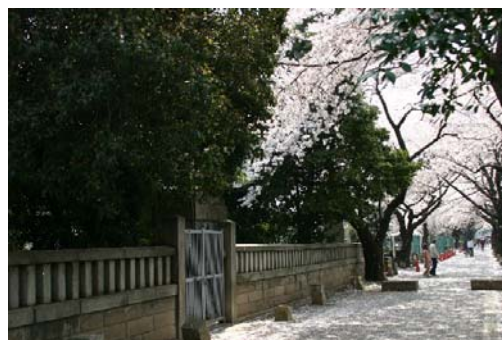
(坂の案内標識)



(霊園に面した寺院の山門)



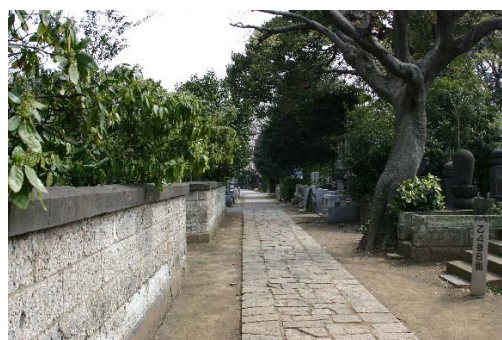
(桜通り沿いの建物)



(園内の墓所の石塀)



(園内の石碑と墓所の景観)



(園内の園路の景観)

霊園とその周辺における歴史を感じさせる建物などの例